

会 議 録

会議の名称	指定管理者選定委員会（第22回）	
事務局	企画財政部 企画政策課 企画政策係	
開催日時	平成26年4月25日（金）10時00分～12時40分	
開催場所	小金井市役所本庁舎3階 第一会議室	
出席者	委員	委員長 武田 真一郎 委員 副委員長 益田 あゆみ 委員 委員 飯島 康 委員 井原 秀憲 委員 本木 紀彰 委員 欠席委員 0人
	担当課	経済課長 當麻 光弘 経済課産業振興係長 田嶋 隆行 経済課産業振興係主事 大久保 知佳
	事務局	企画政策課長 水落 俊也 企画政策課長補佐 中田 陽介 企画政策課副主査 廣田 豊之
傍聴の可否	可 一部不可	不可
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 平成26年度 諮問第1号 東小金井事業創造センターの指定管理者候補者の選定について (2) 次回の委員会開催日等について (3) その他 3 閉会	
会議結果	別紙会議録のとおり	

第22回小金井市指定管理者選定委員会

日 時 平成26年4月25日(金) 午前10時00分～午後0時40分

場 所 市役所本庁舎3階 第一会議室

出席委員 5人

委員長 武 田 真一郎 委員

副委員長 益 田 あゆみ 委員

飯 島 康 委員 井 原 秀 憲 委員

本 木 紀 彰 委員

欠席委員 0人

担当部局職員

経済課長 當 麻 光 弘

経済課産業振興係長 田 嶋 隆 行

経済課産業振興係主事 大久保 知 佳

事務局職員

企画政策課長 水 落 俊 也

企画政策課長補佐 中 田 陽 介

企画政策課副主査 廣 田 豊 之

(午前10時00分開会)

◎委員長 ただいまから第22回指定管理者選定委員会を開催いたします。

審査に先立ちまして、第2次審査の採点方法について協議をさせていただきます。

評価項目及び配点については、第1次審査と同様の内容です。本日の補足的な説明、それから、質疑を踏まえて再度採点していただくという形になります。

採点につきましては、評価項目、配点が第1次審査と同様ですので、第1次審査結果を基準にさせていただいて、そこから、本日の説明、質疑により見直しをする箇所を直していただくという形で進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

◎委員長 では、異議なしと認めます。それでは、採点方法につきましては、そのように進めていきたいと思っております。

なお、第1次審査の評点票及び第2次審査評点票はお手元にお配りしておりますので、第1次審査評点票を確認しながら第2次審査評点票に記入していくというふうをお願いいたします。

(A者入室)

◎委員長 おはようございます。本日は、お忙しいところを小金井市指定管理者選定委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。ただいまからA者さんに対する第2次審査を始めます。

まず最初に、提出していただいています申請書等に基づいて、提案内容に沿って、15分で簡潔に説明をお願いいたします。時間が来ましたら、途中でであってもやめていただくことになりますので、ご了承ください。その後、各委員からの質疑応答を20分程度行います。

説明に当たっては、担当者のお名前は言っていて結構なのですがけれども、会社名や、会社名がわかるような発言はしないというルールになっておりますので、その点、ご留意をお願いいたします。

では、まず初めに、15分間、説明をお願いいたします。

◎A者 本日は、このような機会をいただきまして、ありがとうございます。代表をしておりますキタイケと申します。もう1名、担当しております。

◎A者 ニシヤマです。よろしくをお願いいたします。

◎A者 お願いいたします。

ご提出させていただきました資料なのですが、非常に膨大にわたっておりまして、15分ということなので、主に(8)事業計画書(提案書)の内容についてご説明させていただこうと思います。また補足等あれば、後ほどの質疑応答のほうでよろしくをお願いいたします。

(8)事業計画書(提案書)についてなのですが、1ページめくっていただきまして、2ページ目、「前提となる考え方」といたしまして、ここの小金井市というまちが、郊外として住みやすい、住み続けたいまちという、まちとしてのビジョン、そして、行政、民間企業、あるいは市民等の協働というものがビジョンに掲げられており、また小金井市として、商業、あるいは工業といった事業者数が少なく、税収という意味でもなかなか厳しい部分もあるという、そういう理解をしております。

また、当施設があります東小金井駅のこれまでの開発ですとか、あるいはインキュベーション施設としての、三鷹にそういったものが多数あったりとか、この施設自体が非常に後発であり、今後どのような展開を図っていくのかという、そういう前提の中で、今回、「基本方針」といたしまして、3ページ目をめくっていただければと思います。

大きな3本の柱を考えております。利用者育成や市内定着等に向けた事業の実施、安定的な施設運営の継続的な提供、業務改善等による効率的な運営、この三つが柱になってくるのですが、その中でも特にこの施設の場合、施設の特徴として、施設規模が、ほかの体育館ですとか、市民交流センター等々に比べて非常に小さいという点であるとか、あるいは広く市民に使われ

るというよりは、特定の市内外からの起業家を多数集め、その方々がしっかりと事業を形にしていき、そして市内に定着していき、産業振興を図っていくという、そもそもの設置目的等々を勘案した場合、もちろん、この②、③のハードの施設管理はもとより、それに加えて、その上にのっかっているであろうソフトの面、利用者育成ですとか、市内定着において、いかにそういった支援ができるのか、①の基本方針に注力を置きながら全体を運営していくということが重要ではないかと考えております。

育成とか市内定着という面で行きますと、3ページ目の下のほうに図があります。市内外から、起業をしている方、あるいは起業を予定している方がこの場所に集まり、そして、そのアイデアを起業というふうに変え、そして事業家として雇用を生み出すような事業へと展開していく、そういった方々が市内に定着して、地域に根差した産業振興を図っていく、その姿を見て、また新しく市内外から起業家を集めていくという、このサイクルをいかに回し続けるのかということが重要ではないかと考えており、これをやっていくための、上のほうに書いております、さまざまな関係各者とのネットワークの中で協働を推進していくことが重要だと考えております。

私自身、小金井に住んでおりまして、息子、娘を保育園に預けており、あるいは「184」という市内フリーペーパーを5,000部発行する市民団体の代表などもおこなっている関係で、この小金井市の中では非常に豊富なネットワークを形成させていただいております。

また、起業支援というものをこれまでの方針としてやってきていまして、担当者自身も、ここにおりますメンバー自身も、そういった起業支援に従事してきた者です。

そういった中で、多摩エリアとしての、例えば、多摩信用金庫だったり、西武信金、あるいは日本政策金融公庫、あるいはデベロッパーであるJR中央ラインモールとの連携、あるいは、多摩を越えて、さらに東京都、あるいは国レベルとの事業というものもこれまで多数行ってまいりました。小金井だけにとどまらず、多摩、東京、あるいは全国といった視点で、こういう起業支援ができるパートナーが多数おります。そういった皆様方のご協力を仰ぎながら、利用者育成、地域連携等を図っていく、そういった所存です。

また、この東小金井事業創造センターの入居者だけにかかわらず、それ以外の起業家の方に対するサポートというものも、本来的な設置目的として重要な要素があるのではないかと考えておりまして、そういった部門は実施事業の範囲になってくるかと思うのですが、入居者、利用者以外の方々に対する起業サポートをする中で、市内定着、市における産業振興を図っていく、また、我々でも、弊社3名体制という形で指定管理業務をやっていこうと考えておりますが、それだけでなく、客観的、俯瞰的な目で改善、あるいは評価をしていただく外部の評価委員会を組成する、そういったことを通して全体的な流れの中でいかに市内定着を図っていくのかということに取り組んでいく、そんな考え方でございます。

また、②、③に書いておられますとおり、安定的な施設の運営、継続的な提供、あるいは業務改善における効率的な施設運営といったものも、もちろんこの部分はベースとなってくる部分

でございます。マニュアルに沿った定期的な保守点検、あるいはチェックリストを用いた頻度の高い清掃、事故防止のための安全指導や緊急時の対応策、あるいは「ごみを出さない」という小金井市のビジョン、情報保護に関する法令遵守、単年度指定管理期間の両側面でのP D C Aサイクルを回していく、そういった改善活動に取り組んでまいります。

以上を基本方針といたしまして、もう少し詳細な部分といたしまして、5ページ目以降に記載がございます。このあたりにつきましても、1ページずつというのはなかなか難しい部分もありまして、まず、広報的な部分で言いますと、めくっていただいた6ページ目に、これまでの実績というか、これまで、多様な皆様方とのご協力の中で広報を行ってきたという実績がございます。中小企業振興公社ですとか、基盤整備機構、中小企業庁、経済産業局等々、あるいはJ Rとの連携の中で、武蔵小金井駅とか、東小金井駅でのパンフレットの設置、また、私どものネットワークの中で、市内外を問わず150か所程度のパンフレットを設置させていただける協同パートナーがございます。そういった連携の中で広報支援というものを積極的に行ってまいりたいと考えております。

少しめくっていただきまして、8ページ目にまいります。こちらの施設は、公共施設というのを勘案した場合、やはり公平性というものが非常に重要な部分になってくるかと思えます。そういった観点から、小金井市との協議を行った上での審査基準の設定及び外部有識者3名と小金井市職員1名を加えた審査委員会というものを設置いたします。審査委員には、金融機関の職員の方、創業支援の事業者、市内の先輩起業家に当たる方、そして行政職員、この4名体制で、外部の客観的な評価ができ、多面的な審査ができる体制を整えていく。また、それとあわせて、情報開示の請求等に対しては誠実に対応していく中で、公平性、透明性といった部分での施設運営を図ってまいります。

少しめくっていただきまして、10ページ目にまいります。利用者育成・支援についての取組なのですが、この部分が非常に肝の部分になってくるかと思えます。利用者、起業したばかりの方が自立的にP D C Aサイクルを回していくための習慣づけをしていく中で、利用開始時の目標設定及び半年ごとの進捗の振り返り、また、希望者に対しては、集中的なゼミ講座によって事業計画をブラッシュアップしていく。また、事業者同士の交流という意味で、1足す1を3にしていくような相乗効果を図っていくための交流の場として、リアルな交流会と、オンラインにおけるメーリングリストやフェイスブックグループ等におけるコミュニケーションの促進。また専門職員による個別相談はもとより、多数の外部のパートナーから情報提供される中で取捨選択した中で、利用者に対しての情報提供。例えば、今だと、最大200万円の補助金などが出るといった制度もございます。そういった補助金の情報提供なども行ってまいります。また、外部関係機関からの事業化セミナーですとか、そういった皆様方への公開プレゼンテーション、そういった7つの柱を育成の柱と考えておりまして、こういったことを通じて育成支援を行ってまいります。

また、市内定着に向けた取組も、本施設の場合、非常に重要な取組になってくるかと思いま

す。非常に大事な論点として、3年間という利用期間中にいかに市内の皆様方との関係構築をして、彼らが3年後、卒業するとき、市内に残り続けたいと思える、そういった環境整備が重要になってくるのではないかと考えております。そういった意味から、起業家をサポートするためのチームを小金井市の企業とかNPOと連携しながらつくり、また、学生によるインターンシップやプロボノといった人的なサポート、また、小金井市内にそういった利用者のサービスを提供する、顧客をつくっていく、こういう関係性をつくっていく中で、3年たった後に市内に残り続けたいという関係をつくり、その際に、不動産の情報の提供、④におきましては、産業競争力強化法の中で、今、小金井市で進めていらっしゃる創業支援計画との連携を図りながら、優遇措置がとれるような体制の整備等を図っていく中で市内定着を促進してまいります。

自主事業についてです。こちらは冒頭で申し上げましたが、利用者だけにかかわらず、幅広く、この小金井市における起業促進、あるいは事業化促進を図っていく考え方です。例えば、この場所を卒業した方がさらに雇用を生み出していくための事業化セミナーですとか、あるいは、この施設を使うにはちょっと違うような業種であっても、起業というテーマで、さまざまな店舗をつくったりとか、農地を生かしたりとか、そういった方々もいらっしゃいます。こういった方々に対しての事業化セミナー、あるいは、まだまだアイデア段階という方に対しての、アイデアを起業という形に変えていくためのワークショップ、また、この小金井には多数の主婦の方、あるいは学生、都心に働きに行っているサラリーマンの方々、あるいは60を超えたシニアの方々がいらっしゃいます。こういった方々のサポートですとか、働き方サロンという名前で、一つ、何かしらの新しい動きを起こしていこうという、そういったモチベーションをかけていくための勉強会等々も開催していく予定です。セミナーと働き方サロンについては月1回、アイデアワークショップについては年2回を予定しております、オール小金井でこういった起業の文化をつくっていくということをうたっていきたいと考えております。

18ページ目、地域連携とか利用者支援、こちらのほうも図を見ていただいたとおりなのですが、特に小金井周りのお祭りですとか、イベントへの協力、あるいは学生との連携、大学との連携、この辺が非常に重要な要素になってくるのではないかと考えておまして、現在もそういった関係はもちろんつくっているのですが、さらにこの辺は加速してまいりたいと考えております。

20ページの情報収集及び発信につきましては、事業者の事業課題や業種テーマを勘案した上での情報提供、また、この施設からの情報発信としては、ウェブだけではなく、年1回、この施設を一般開放して、この場所でこういった取組をしているのかということをも市民の皆様方にお伝えしていく、そんな場をつくってまいりたいと考えております。

人員体制については3名体制で考えておまして、専門職員として、起業・事業化支援を担当できる専門スタッフを2名、こちらに配置する予定です。もちろんシフトを組み合わせながら、常にその場所に誰かがいる状況をつくりつつ、さらに施設管理業務だけに誰かがいるというわけではなくて、施設管理業務をしながら起業支援ができる、その兼務ができる人材がこちらの

場所に常にいるという状況をつくることによって、効率的であり、かつ利用者との関係構築を図っていくという体制で臨んでまいりたい考えです。

23 ページ目のところでその専門職員の業務経歴を書いております。過去、コンサルティング経験が豊富な専門職員 A と、専門職員 B としましては、一般財団法人、NPO、また、鹿児島等において、実際、ビル 1 棟を丸ごとインキュベーション施設として、施設管理経験、施設管理責任者としての経験を持つ、そういう施設管理にもすごく見識のある、そういう人材 2 名体制でこちらの場所を進めていく予定です。

24 ページ目以降で施設の維持・管理の説明となっております。こちらは見ていただいたとおりなのですが、定期的な保守・点検、マニュアルに沿った清掃、年度ベースでのアンケートによる満足度調査、事故防止や災害等における緊急対応等々を法を遵守しながら行ってまいります。

また、小金井市において、「ごみを出さない」というのは非常に大きなテーマになってくるかと思えます。こういったごみ減量に対しても積極的に取り組みながら、温室効果ガスの排出抑制、水や紙の使用量の削減、グリーン購入といったものを徹底してまいります。

また、個人情報の保護、情報公開の請求等に対しても積極的に図ってまいります。

最後、収支の部分なのですが、基本的には、施設設備と自主事業で収入を重ねていく予定としておりまして、施設利用のほうは、個室ブースといわれる、いわゆる一般公募が必要な部分については、多少、出ていかれた後の募集に時間がかかってしまう部分もございますので、0.8 掛けでの計算、シェアスペースにつきましては、30 席という中で、常時 30 席全部が埋まることはないだろうということを考えて、定員の 1.5 倍程度の 45 名前後を想定した計算として、徐々に右肩上がりの収入を計算しており、最終的に収支といたしましては、継続的な持続可能な運営ができるような、多少の黒字という中で事業を推進していく、そういう考え方でございます。

以上となります。最後、駆け足になって申しわけございませんでした。

◎委員長 どうもありがとうございました。

説明は以上で終了にしたいと思います。また質疑の中で順次お答えいただくようお願いいたします。

では、これから質疑を開始したいと思います。初めに委員長からお伺いして、その後、各委員から質問をしていただくことにいたします。

最初に、応募に当たりまして、A 者さんの役員の中に、本市の市長、副市長、教育長、議員等の本人、またはその配偶者及び二親等以内の親族がいない旨の誓約書を提出していただいておりますけれども、このことに間違いはないでしょうか。

◎A 者 ございません。

◎委員長 わかりました。

では、初めに私から 1 点お伺いしてから、ほかの委員から質問をすることしたいと思います。

この施設の目的は、起業家を育てて、地元に着してもらうという、なかなか難しい内容を目的としているわけなのですが、A者さんとしては、そのために一番重要なことはどういう点だとお考えでしょうか。重複になるかもしれませんが、簡潔に、もう一度お答えいただければと思います。

◎A者 世の中にこのような施設というのは、特に隣のまちの三鷹の場合は、10年以上前からそういったものが行われているとお聞きしています。そういった中で、オープンした当時というのは非常に盛り上がりも見せているのもあると思うのですが、この場所がしっかりと5年、10年、小金井にそういった起業というものを定着させていき、そして市内外を問わず、この小金井というまちで起業しようという、そういう風土というか、その雰囲気が出ていくということが非常に重要なのではないかと考えております。

そういったものを考えた場合、もちろん広報という部分でたくさんの方を集めていくということももちろん大事なのですが、しっかりとそこで成功事例をつくっていくといえますか、起業家を育てていって、ここの場所を卒業した何々さんとか、何々さん、成功しているよねという、そういったことをつくっていきながら、そういった方々が小金井市で活躍するという姿をこの3年間でしっかりとつくっていく。この姿をつくるのが、さらにその次の3年間、さらにその次の次の3年間というものにつながってくるのではないかと考えております。

そういった意味合いで、まず、その流れをつくっていくことと、さらにその育成、あるいは市内定着を考えた場合に、私どものほうでは、もちろん、そういった個別の指導とかができる人材をそろえてやっておりますが、そこだけにかかわらず、市内の皆様方のご協力、あるいは市内を問わず、金融機関ですとか、各種関係各省との連携というものが不可欠になると考えております。そういったコーディネートという部分の役割が非常に多く求められているのではないかと考えております。

◎委員長 わかりました。ありがとうございました。

では、ほかの委員の皆さん、何か質疑があれば、お願いいたします。

◎委員 本日はご苦労さまでございます。お話を拝聴させていただいて、それから、事前にいただいた資料を見させていただいたのですが、今回、インキュベーション施設ですから、そういう意味では、ハードというよりもソフトの部分の支援が一番必要なのかなと、今、おっしゃるとおりだと思うのですが、中を拝見させていただいて、今回、収入と支出の部分についても出しているのですが、人件費の割合が比較的少ないなという感じがいたします。今のご説明ですと、いわゆる経験豊富な方が実際に当たられるということなのですが、この程度の人件費でそういう方がきちっとした形で、なおかつ常駐をされて、極めて細かいお話も含めて、きちっとした支援ができるのかなというのが、やや心配なのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

◎A者 確かにこの程度の人件費という部分の金額となっておるのは事実かなと思うのですが、どういうお話をすればいいのかわからないのですが、いわゆる大企業と比べまして、私ども、ま

だまだ開業して4年目の若い会社でございます。実際問題、ここにおりますメンバーが主にこの場所を担当していくという中で、今までやってきたことをさらに加速させていき、さらにそれを小金井市に貢献させていただくという意味合いから、通常、これまでやってきた業務をさらにこの施設の中でやっていくという考え方でおりますので、特にすごく報酬をもらってやっていくというメンバーではないのは事実なのですが、どんな感じなのですかね。

我々、どちらかというところ、非営利とか、社会起業とか、ソーシャルビジネスとか言われるような分野の中で長くやらせていただいておりますわけなのですが、そういった人件費単価というのはそれほど大きくはない世界の中でやらせていただいております、逆に、我々のように、この程度であっても、きちっと対価を得てやっていくというのが貴重な世界と言ったら非常にわかりづらいかと思うのですが、そこに経済的見返りのみならず、一般的な話になりますけれども、やりがいや、成果が見えやすいというところに異なる対価を得ているという実感といいますか、そういったところでやらせていただいておりますために、大企業の方から見られた場合に、人件費単価はえっという金額なのかもしれないのですが、そういった意味合いが強いのかなと思います。

◎委員 金額もさることながら、内容的なものは非常に盛りだくさん、納得できるなというところがあるのですが、本当にこれ、お二人なり、事務方もう一人ですることができるのか。しかも、これから創業するよといったときに、ご支援とともに、募集をするとか、そういう情報発信をするという日常的な、そういうものも初めての中で、私は中身が本当にこなせるのかと。絵に描いた餅にならないということが非常に心配というか、ちょっと気になるなというところなんです。

◎A者 まあ、やりますとしか言いようがないのですが、これまで実績として、別にそれほどの難しさを感じていないといいますか、割とその文脈ですとやってきたメンバーであるのが事実でございます。資料4のところ申請者の概要がわかる書類として書かせていただいておりますが、実績などでも書かせていただいておりますとおり、これまでが創業支援センターTAMAという、多摩市の多摩大学との連携の中で、覚書を通して創業塾をやったりとか、公認の機関としての、町長からのワークショップだったりとか、民間企業との連携だったりとか、あるいは起業支援として、こちらのほうの人間なども100名規模でそういったものを行ってきたりとかいう経験がございます。そういったこれまでの蓄積がございますので、全く一からするのはなかなか難しいかなと思うのですが、そういったときに、やはり頼れるパートナーがいるという。

◎委員 では、専任をされるということでのいいのですね。

◎A者 そうです。

◎委員 一人の方は、給料は20%とか何か、全額ではなかったような書き方になっていたのですが、もう、ここに専任と。

◎A者 そうですね。一人は専任します。一人は、ここ以外のこともやっていく部分はあるのですが、百何%の人材の中で、そのコーディネイト業務と個別の相談業務をやりながらやって

いくという、そういう考え方です。

◎委員長 それに関連して、再度、私からですけれども、ある意味で遠慮されて人件費を低く書かれている面もあると思うのですね。逆に、あまり低い経費で大変な仕事をお願いするのは、何か市が搾取しているみたいで、また問題があると思うのですけれども、一応、基本的にここに書かれた人件費でA者さんの運営は賄えると理解してよろしいですか。

◎A者 はい。現実問題、このぐらいの給料で、現在も、これまでもやってきましたという実績もございます。ここに指定管理料というものがもう少しのっかっていると、もう少し融通がきく部分もあるのですが、それ以上に、先ほど申しあげましたように、先ほど社会起業という言葉もありましたが、この小金井というまちにおいて、暮らしとか、働くといった場合に、起業というふうに一見思われにくい場所だと思うのです。ただ、ここには多様な人が住んでいらっしゃるって、そういった地域課題というのはたくさん眠っていると思うのです。こういったことにトライしていこうという若い人たちが世の中にすごくいるのは事実でございます。そういった方々に対して、一緒にそういった課題解決に取り組んでいこうと、その社会的報酬といえますか、やりがいという部分が、一番上にのっかってくるモチベーションの源かなと考えておまして、その中でしっかりと事業をさせていただくという考え方のもとで全く問題がないというか、無理して低く設定しているわけではございません。

◎委員長 そうですか。

◎委員 試算表や決算書を見せていただいたときに、会社設立されてから間もないところから順調に実績を伸ばされているなという印象は受けるのですが、借り入れもありますし、そういった返済とともに、また、人件費が今後かかってくるということで、今後の経営の見通しをお聞かせいただければと思います。

◎A者 現在、直近の、今期における半期が終わったタイミングで、自己資本比率が24%まで回復してきたというか、順調に初年度に行った初期投資が回収が進んでいる状況でして、今期の最終的な数字、まだあと2か月ちょっと残っておりますが、予定としては300万円前後の営業利益が出るのではないかと考えております。その中で、8月以降、この指定管理業務を行った際に、ここで見ていただいたとおり、特に営業利益が出るような事業運営ではございませんが、全く問題なくこの事業を推進していくとともに、ほかにも幾つか拠点を持ったりですか、ちらっと申しあげましたが、市とか、都とか、国との連携事業も今、仕込みをしている状況です。そういった部分を勘案しまして、どこまでそれが実現するかという部分はまだまだこれからの話になってくる部分はあるのですが、実際問題、それが今、幾つかあるのは事実でございますので、そういった面から見て、経営的には、今期についてはそのような感じで、来期以降についても、もちろん、こちらの指定管理業務に影響がないというか、そのままの推移を、今、見通しとしては考えております。

◎委員長 ほかにいかがでしょうか。

では、私からですけれども、今までのご経験の中で、起業家を支援したり、地元に着して

もらう上で、こういうことが非常に役に立ったというご経験がもしあれば、ちょっとお話しただけですか。今までのご経験の中で、本市に限らずですが、何かありますか。

◎A者 市内定着という側面から見たときには、現実問題としましては、例えば、こちらの東小金井の施設でありましたら、施設に入居、3年なら3年されて、その後、不動産、土地等の価値で入居してもらった場合には、定着というのは非常に難しいだろうなとは思いますが、そこで場所を持つとともに、仕事や地域の金融機関との関係や、いろいろな地域との関係性ができたときに、非常に属人的な話で恐縮ですけれども、逃げられない関係性ができたときに、3年後に小金井市に定着をしていくのだろうというのが、過去の経験から実感されることでして、そういった関係のために、今、キタイケからいろいろご説明させていただきましたけれども、市内定着という意味においては、そこが重要になってくるので、人的ネットワークというのが非常に生きてくる部分なのかなと考えております。

◎委員長 知り合いをつくるということなのではないでしょうか。今のは定着ですけれども、支援というのはやはり相当難しいと思うのですが、どういうことをすると一番背中を押してあげられるのでしょうか。わからないからお聞きしているので、自由に答えていただきたいのですが。

◎委員 関連でいいですかね。逆に、提供できるネットワークとか、情報とか、ここに入りたいという人の情報とか、この中に住んで得られるということも含めて、現在、何かそういうものを持っておられるのですか。

◎A者 はい。

◎委員 やりたい、ここに入ってきたいという方とか、準備室をつくっているとかという話もあります。

◎A者 この4月から、一応、施設自体はオープンしております、今、もう既に10名以上の方がそこでまさに準備をしているという状況です。

◎委員 今、言われたような、いろいろな情報をその方に渡してあげる、そのためのネットワークとか、情報源とかいうところが一番重要になってくるのではないかとということで聞かれたのではないかなと思って。

◎委員長 そのことも含めてですけれどもね。

◎A者 支援という意味でいきますと、おっしゃるとおり、いろいろな要素があるのですが、最後の最後は、実際にきれいな事業計画書を書くかどうかというところではなくて、結局、自分で目標設定して、あるいは自分がなぜこれをするのかという理由というか、確固たる自分のパッションというか、マインドなのだろうなと思っていまして、そこをしっかりと確認する作業ですね。その確認した作業の中で、目標に対して、しっかりと自分でPDCAサイクルを回していくという、この習慣づけというものがまずは重要ではないかと考えております。

例えば、これまでサラリーマンをやっている中で、その経験は、起業家とサラリーマン、あるいは学生という部分で、そこに大きな働き方というか、自分で業務をつくっていく、それ

を回していくという、ここの回し方に大きな差がありますので、そこをしっかりとマインドセットも含めてやっていくという意味で、この育成の中でも、特に自分のPDCAを回すための、初めに面接をして、目標を設定しましょうですとか、それを定期的にしっかりとフィードバックしていくとか、共有していく中で、新たなまた次の目標をつくっていきましょうという、その辺のずっとそれを回していくということがまずは地道に必要なのかなと考えています。

あとは、もう一つ言いますと、先ほど話がありましたが、安価な不動産としてそこを借りるというのではなくて、どうしても起業家はひとりぼっちなので不安なですね。自分自身がこの立ち位置にいて、今、どこまで進んでいるのかということがなかなか見えなくなってしまう、そういったことに陥りがちなのですが、そういったときにしっかりとライトを照らしてくれるようなメンターとか、それが我々になってくるのかなと思うのです。あるいはそういった地域の関連の皆さん方になってくるのかなと思うのですが、そういったライトを照らし続けてあげることと、あわせて、横に同じような仲間がいるという、この関係性ですね。私ひとりではなくて、こういった仲間と一緒にやっていくのだという、こういう関係づくりが非常に立ち上げ期において重要ではないかと考えています。

◎委員長 ちなみに、今はどういう事業をしたいと思っているような方々が入っているのですか。支障のない範囲で。

◎A者 例えば、小金井にお住まいの方でして、介護をしている方のケアですね。介護の家族のケア、ケアラーズというそうなのですが、それはこの地域も含めてかなり社会課題になってきておりまして、介護向けのいろいろな制度は設計されているのですが、その家族のケアはまだ法的な部分も手薄な部分がございます、そういった横のつながりをつくっていきましょうという団体ですとか、あるいは引きこもりとか、不登校とかの子供たちに対しての教育サービスを提供しようですとか、などなど多数ございますけれども、例えば、そんな感じです。

◎委員長 少しイメージできました。

ほかにいかがでしょうか。

◎委員 経歴も拝見させていただいて、どちらかというとなり非営利型の事業のご指導が専門かなという感じも伺えますし、今のご説明も、どちらかというとなり営利型というより、非営利形ということなのですが、必ずしもそういう方だけではなくて、営利型の事業をやりたいという方もいらっしゃいますし、その場合には当然、場所を確保する、資金を調達する、設立、それ以外の法的な問題も全部クリアするというところで、それを立ち上げて、さらに実際に収益を上げるまでの間というのは、相当多岐にわたった支援が必要だと思うのですが、お話を伺いますと、大変失礼ですが、そちらのほうはあまり得意ではないのではないかと感じますので、正直なところ、いかがでしょうか。

◎A者 私自身は完全にコンサル畑の人間でして、営利ばりばりの畑で育ってきた人間でございます。そういった意味で、得意ではないかとすると、むしろそちらのほうで専門で、ずっとこれまでキャリアを築いてきたというのが実際問題でありますので、上は上場企業から、下は

5人規模ぐらいの企業から、幅広く、100社以上のコンサルティング経験がございますので、その各フェーズごとに応じてだったりとか、最近、多摩エリアを中心に活動するようになって、六本木とか渋谷とかに比べると、そういった文脈で働いている方のほうが多いのが事実なので、この地域の場合。なので、比較的そちらのほうが、ここ数年は中心となっておりますが、全然それは問題ないといえますか。

あわせて、入居者の中には、おっしゃるとおり、プログラミングをやっている人材ですとか、普通に設計業務をやっている人材、あるいはデザイン関係の人材等々、いわゆる非営利に特化しているというよりは、先ほどの例が、確かにそちらの方を中心にご説明してしまった部分があるのですけれども、全体を見た場合に決して非営利が多いわけではなく、特徴的な部分を出してしまって、全体でいきますと、営利といえますか、映画の興行をやっていたりとかいう人間もいますので、そこに対して、十分これまでの経験がございますし、現在も行っているというのが実態です。

◎委員長 ほかに、あと1名ぐらい、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、以上をもちましてA者さんに対する第2次審査を終了いたします。審査結果につきましては、後日、担当課より文書にて通知することになります。それでは、本日はどうもご苦勞さまでした。

(A者退室)

◎委員長 採点のため、しばらく休憩ですが、次の方は何時から始まるのでしたか。

◎水落企画政策課長 50分です。

◎委員長 では、今からちょうど10分ぐらいを採点と休憩といたします。

(採点・休憩)

(B者入室)

◎委員長 それでは、再開いたします。

本日は、お忙しいところを小金井市指定管理者選定委員会にご出席をいただき、ありがとうございます。ただいまからB者さんに対する第2次審査を始めます。

まず初めに、提出していただいております申請書等に基づいて、提案内容に沿って、15分で簡潔に説明をお願いいたします。時間が来ましたら、途中でも終了といたしますので、ご了承ください。その後、各委員から質疑応答を20分程度行います。

説明に当たっては、担当者のお名前は言っても結構ですけれども、会社名や、会社名がわかるような発言はしないというルールになっておりますので、この点もご注意をお願いいたします。

それでは、今から15分間、説明をお願いいたします。

◎B者 おはようございます。それでは、これからプレゼンをさせていただきたいと思っております。それでは、まず、当事業所でございますけれども、全国組織でございます。昭和36年に設立いたしました。これまでに50年余りにわたりまして、地域経済、それから、地域振興事

業に携わってまいりました。

業務の大きな柱といたしましては、市内の商工業者に対します経営改善普及事業、いわゆる金融、税務、経理、経営、労働、そして創業など、創業者の経営の安定と発展を持続させるための指導業務、それから、地域活性化のためのイベント等、にぎわい事業のお手伝い、あるいは実施の主体として事業を行っているものでございます。

また、これまでの行政関係の受託業務といたしましては、小金井市の経済課から地域活性化にぎわい事業、あるいは現在行っておりますけれども、黄金井の里の事業、あるいは小金井市の市民会館、それから、前原暫定集会施設の管理業務では、日々の受付業務、それから、利用者からのトラブル処理、機器関係の管理業務など、小金井市の負託にこたえるべく、利用者の満足度を高めており、これまでに大きなトラブルはなかったということでございます。

一方、今回のK O - T Oの管理業務でございますけれども、これにつきましては、これまで蓄積されましたノウハウと経験で円滑に管理できているところでございます。

また、今回のK O - T Oの入居者でございます起業家等に必要な経営課題の支援は最も得意とする分野でございます。セミナーですとか、個別の相談、あるいはエキスパートによる相談は日常業務として現在行っているところでございます。

そして、入居者の問題や課題、こういったことに対しましても迅速に対応できる体制が、当社といたしましうか、うちの団体には備わっているということでございます。役員からもしっかりやってこいと檄を飛ばされているところでございまして、これから具体的な細かいところの内容をご説明申し上げますけれども、ぜひとも指定管理者としてお願いするものでございます。

それでは、具体的な細部にわたりますところは、うちの指導係長からご説明申し上げますので、よろしくお願い申し上げます。

◎B者 指導係長のタガシラと申します。本日はよろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、事前に提出をさせていただいております指定管理者事業計画書（提案書）に沿って、補足説明ということでご説明させていただきます。

まず、お手元の提案書1ページ目をごらんいただきたいと思います。まず、基本方針ですが、そこにも少し大きい字で記載しておりますが、「翔たく企業を応援します」という理念を持ちまして、施設の利用、活用を図ってまいりたいと考えております。私どもは、このK O - T Oを創業者、起業家の経営相談拠点として考え、起業に関する経営相談、それから、そこで行いますセミナー事業、それから、さまざまな情報を収集、発信をしてみたいと考えております。また、それらを通じまして、施設への入居にもつながる運営を目指してまいりたいです。創業者を育て、この施設からどんどん羽ばたかせていくという体制をつくり上げたいと考えております。

そのような体制をつくり上げるべき具体的な事業計画のご説明をさせていただきます。提案書2ページ目をごらんいただきたいと思います。私どもは、まず、五つの重要事業を掲げまし

て、施設利用者の育成支援に取り組んでまいりたいと考えております。

まず一つ目ですが、経営指導員・専門家派遣制度による支援体制の充実でございます。K O - T O を創業者・起業家の相談拠点として考える上で、施設に常駐しますインキュベーションマネージャーの役割は大変重要であると考えております。私どもの職員であります経営指導員がその役割を担い、経営支援を行うべきだと考えております。この職員の経営指導員とは、一定のレベルに達している者に与えられる資格でございます。東京都知事の認定を受けまして、現在、私どもには経営指導員が5名在籍をしております。企業へのきめ細かい相談・支援を行いまして、また、高度な相談の場合になりますが、当事業所で行っております、無料で専門家を派遣するという制度もございます。このような制度も活用しながら、効果的で継続的な支援体制を図りまして対応することを考えております。

続きまして、二つ目の事業になります。こちらは特別金融窓口相談事業ということを考えております。創業者にとっては、資金面の金融に対する相談が非常に多いこと、また大変重要だということを考えております。金融機関等と連携いたしまして、金融専門の相談窓口を設置しまして、創業者の資金面に対する事業計画、それから、返済計画等の相談に応じて金融のあっせんに取り組んでまいります。

続いて、三つ目の事業といたしまして、創業者向け研修会、セミナー事業の開催でございます。創業予定者及び創業して間もない中小企業、事業主を対象にした、創業に必要な知識、それから、創業者が抱えております問題解決のための研修会、セミナーの開催を考えております。特に創業予定者を対象とした創業塾というセミナーがございます。この創業塾に関しましては、私ども、平成22年11月に北多摩地域を中心に開催した実績がございます。52名の参加、うち3名が開業をしたという実績がございます。このようなセミナーのノウハウ、また経験を生かしまして、効果的なセミナーの実施を行うことが可能だと考えております。

続きまして、四つ目の重点事業でございます。当事業所のネットワークを活用した販路開拓事業を考えてございます。この事業は、販路開拓や営業、それから、商品開発、新サービスに関する受発注のあっせんや、見本市等のマッチング支援、また、助成金や補助金の活用を当事業所のネットワークを活用し、支援を行ってまいります。現在、地域内の17の商店街、それから、各金融機関、J A、行政とともに連携をとり、さまざまな事業を支援を行っております。地域外でもそのような地域ネットワークを持っておりますので、そのようなネットワークを十分に活用して支援をしてまいります。

最後の五つ目の事業になりますが、当事業所のネットワークを活用した情報発信事業でございます。同じく当事業所のネットワークを通じまして、K O - T O の事業案内、支援施策、それから、入居者等の情報を発信をすることで、K O - T O の周知、入居者、来場者をふやしていく狙いがございます。

以上の五つの取組を重点に置きまして運営をしてまいりたいと考えております。

続きまして、収支計画についての補足説明をさせていただきます。今回、時間の関係もござ

いまして、平成26年度ベースでの補足説明をさせていただきます。5ページ目を参照願いたいと思います。

まず、運営に関しまして、収入のほうの運営を考える上で、やはり施設の個室、それから、ブースの入居率、ここは100%として考えなければ、運営は非常に厳しいと私どもは考えております。この部分は、先ほどの重点事業の取組を行うことによって、何とか100%に近くなるような努力をしてみたいと考えております。

そうした中で、施設・設備利用料金の考えですが、個室ブースを100%として考え、また、シェアスペースは月単位10人、1日3人平均ぐらいは、こちらの場合は目標というほうがよろしいかと思いますが、また希望の部分もあります。そのような利用人数として考えてございます。

次に、自主事業収入でございますが、こちらでもシェアスペースを有効活用して、夜間、土日、祝日を貸し出し、賃料収入を上げていきたいと考えております。

それから、その他の収入ですが、こちらは自動販売機等を設置いたしまして、収入のほうを見込んでおります。

次に、支出についてですが、こちらでも平成26年度ベースでご説明させていただきます。8ページをごらんください。

まず、運営に関しまして、支出を考える上で、やはり人件費の部分が一番重要であります。また、コストの係る部分として認識をしまして、運営計画を考えたところでございます。現在、企業経営の方でも、この人件費という部分は頭を悩ます部分でもあります。私どもの職員であります経営指導員がインキュベーションマネージャーになることで、その部分の人件費は大幅に削減できることと考えております。そうすることで、全体的な運営に対し、安定かつ余裕のある収支計画を生むことと考えております。

そうしたことを踏まえながら、全体的な収支計画になりますが、すみません、ちょっと戻る形ですが、4ページ目をごらんをいただきたいと思います。そちらには、平成26年度、27年度、28年度の計画をご提示していますが、入居率の100%、それから、人件費の削減で、26年度ベースでは約130万円のプラス、27年度、28年度につきましては、約110万円のプラスを見込んでございます。

それから、最後になりますが、効果的な運営の方策ということで、11ページをご参照願います。これまで説明を申し上げました重点事業、それから、収支運営計画を実行することで、組織体制の充実、財政基盤の強化という効果的な運営を行っていきたくと考えております。K O-T Oの目的であります起業家の育成、定着を図ること、それから、現在、我々が支援しております経営支援、産業振興の発展、活性化を図ることは、お互いに目的が合致していると考えております。

◎B者 私どもが指定管理者として運営、活用を図ることが役目、使命だと捉えております。必ずや羽ばたく企業を応援し、羽ばたかせてまいります。何とぞご選定を賜りますよう、よろ

しくお願い申し上げます。本日はご清聴ありがとうございました。

以上でございます。

◎委員長 どうもありがとうございました。

説明が終了いたしました。これから質疑を行いたいと思います。最初に私、委員長からお伺いして、その後、各委員から質問をするというふうに進めていきたいと思います。

まず初めに、確認なのですが、応募に当たりまして、B者さんの役員の中に、本市の市長、副市長、教育長、議員等の本人、または配偶者及び二親等以内の親族がいない旨の誓約書を出していただいておりますが、このことについて間違いはございませんでしょうか。

◎B者 間違いございません。

◎委員長 わかりました。

それでは、まず初めに、私から1点お伺いしますけれども、この施設の目的は、ご承知のように、小金井市で起業家を支援して、しかも地元に着していただくということなのですね。これは大変難しい目的だと思うのですが、これまでのご経験から、そのためには何が特に重要だとお考えになるか、簡潔にご説明いただきたいと思います。

◎B者 情報の提供だと思います。

◎委員長 具体的には。

◎B者 経営に必要な、先ほど申し上げましたけれども、資金調達の関係の金融ですとか、それから、係数把握のための税務関係ですとか、そういったものになるかと思います。

◎委員長 それは育成の上でも、定着の上でも同じであるということですか。

◎B者 そうですね。あと、先ほど申し上げましたけれども、全国組織ということもありますので、幅広い情報の提供ができると思います。

◎委員長 わかりました。

では、ほかの委員の皆さん、何か質問がありましたら、お願いいたします。では、 委員、お願いします。

◎委員 どうもご苦労さまでございます。今のご説明で、インキュベーションマネージャー、特に経営指導員の対応が大変大事だということで、全く私もそのとおりだと思うのですが、具体的な配置なのですが、経営指導員、事務員の2名を配置と書いてあるのですが、これは専門に、この経営指導員の方はここに常駐されるということか、それとも必要に応じてということなのでしょうか。具体的な配置の内容についてご説明いただきたいのです。

◎B者 今、考えているのは、実は経営指導員という職員が5名おりまして、その職員の輪番制ということで、毎日K-O-T-Oに詰めると。それから、事務員については、これも専門的に常駐ということで考えております。

◎委員 ということは、経営指導員の方がシフトを組んで毎日お一人と、事務員の方お一人は必ずそこにいらっしゃる、そういう理解でよろしいのですか。

◎B者 そうです。

◎委員 今回の関連なのですけれども、その中で、統括をする人とか、何かあったときに必ずその情報がどなたかのところに一本化されるとか、それでまた翌日、別の方に引き継ぐとか、そういう組織的な面ではどうなのですか。輪番制はわかるのですが。

◎B者 既にその辺の組織体制ができておりまして、組織でございますので、トップがいて、その下がいて、経営指導員という形になっておりますので、当然、そのときに起きた、日々の、日誌になるのか、日記になるのか、わかりませんが、そういったものについては作成をしまして、それを次の担当のほうに引き継ぎをします。当然、それをまとめる担当、今の状況では、指導係長ということになりますけれども、指導係長の上に局長という形になっておりますので、その辺については、その組織を使った形で対応していきたいと考えています。

◎委員 わかりました。

◎委員長 私からちょっといいですか。今のことに関連して、この施設の責任者はきちんと選定されるのですか。

◎B者 KO-TOそのものの責任というのは、もちろん担当を割り振りをいたします。

◎委員長 それはどういう立場の方が割り振られる予定なのでしょうか。

◎B者 最高の責任ということになりますと事務局長ということになります。

◎委員長 では、事務局長がKO-TOの運営の責任者として位置づけられる、そういうことになるのですね。

◎B者 そうです。そういうことになります。

◎委員長 わかりました。事務員の方は、計画によると、非常勤の方が2名配置されるということですか。

◎B者 もう一度よろしいですか。

◎委員長 この現場に実際2名の事務員の方が配置されるわけですね。

◎B者 一人は経営指導員なのですね。

◎委員長 一人が指導員で、あと、もう一人が事務員の方ですか。

◎B者 そうですね。

◎委員長 その事務員の方というのは、非常勤の方になるのですか。

◎B者 非常勤というか、臨時職員ということになります。パートというふうに考えておりません。

◎委員長 経営指導員の方も1名常駐する。

◎B者 そうです。

◎委員長 それは派遣というか、当番を決めて、ここに詰めていただくことになるわけですね。

◎B者 そうです。

◎委員長 それは、B者の給与で賄うということになるのですか。

◎B者 そういうことになりますね。先ほども申し上げましたけれども、5名おります指導員が、その給与というのは団体のほうから出ておりますけれども、その職員が輪番制でそちらの

ほうに当たっていくことになります。

◎委員長 わかりました。

◎委員 自主事業について、どのようなものを想定されているか、お聞かせいただきたいのと、それについての利用料金収入が収支のほうの自主事業収入に上がっていなかったのも、そちらをお聞かせいただきたいと思います。

◎B者 まず、先ほど申し上げましたが、創業の方に対する創業塾、そのようなセミナー事業を考えております。

収入のほうなのですが、そういう方から全額費用を取るということは、今、考えておりません。テキスト代ぐらいは収入として考えております。それから、もちろん講師の派遣につきまして、講師料がかかるのですが、当事業所のほうでもそういう事業を行っております。そういう事業を行っているのを、K O - T O の場所で行うということを考えておりますので、特に費用がそこで発生して、そこで使うというような認識はしておりません。

◎委員 中にいる方たちを主に対象としているのですか。

◎B者 そういう方ももちろんですが、外の方にも発信をして来ていただこうと思っております。

◎委員 ありがとうございます。

◎委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎委員 今の件に関して確認なのですけれども、私も資料を見させていただいたときに、あれと思ったのですけれども、自主事業に対しては、本来の事業に対して復習的な話というか、費用のほうで言うと、ですから、セミナーとか、そういうのをいろいろ企画しながら、そこからの収益も得ますよということ考えていて、それがあまり入っていない。だから、やらないのかなと思ってしまったのです。もう一度確認は、そういうことはやるけれども、費用的なものが特に計上しない、取らないというか、そういうことでもいいのですか。

◎B者 さようでございます。現在行っているセミナー等ございまして、その一部をK O - T O のほうで行うというふうに考えてございます。

◎委員 費用は取らないけれども、いろいろ外の方も、インキュベーションに入られる方も、いろいろ集めてやられるというふうに理解してよろしいですか。

◎B者 はい。

◎委員長 いかがでしょうか。

では、私からお伺いしたいのですけれども、ご説明の中で、2ページの「利用者育成・支援の取組」のところ、3番目の創業者向けのセミナーを開かれたということだったのですが、これは非常に重要な取組だと思うのですけれども、もう少し詳しくお話しいただけますか。

◎B者 創業塾のお話でよろしいでしょうか。

◎委員長 この間、開催されて、52名参加されて、3者の起業があったということなのですが、その取組について、少し具体的にお話しいただけますか。

◎B者 これは私どもの本部の共催事業という形もあるのですが、各地域内、小金井という限定ではないのですが、小金井を含めた近隣の地域の方を対象とした創業塾というものを毎年どこかで開催をしております。この地域であったり、例えば、西多摩のほうであったり、小平、それから、調布のほうとか、大体4か所程度に毎年創業塾というものを開催しております。

これは、これから創業しようと考えている方を対象としておりまして、参加者はサラリーマン等の方が多ということで、大体、土日の開催ということで開催をさせていただいております。創業に対しての、例えば、事業計画であったり、金融の関係であったり、それから、届出関係、そういう形の事業計画書の作成を行ったり、また、起業をどういう場所で行いたいかなどという場合は、そういう地域の、例えば、空き店舗などの情報もそういうセミナーの中でお教えしたりという形もっております。

それを受けて、すぐ創業したよという連絡、難しいのですが、前回の創業塾のところでは、3名の方が開業したというご連絡をいただいております、52名の参加のうち、月日がたった後、創業したというお話もしかしたらあるのですが、その情報が入っていなかったということで、その辺も今後の課題ということで上がっていますので、長い期間をかけて支援をしていくような体制をつくるべきだと考えております。

◎委員長 既存の業者に対するいろいろな支援は、これは日常的になさっているかと思うのですけれども、それと起業の支援というのは随分違う感じがするのですけれども、起業しようとしている人には、どういう支援が大事なのでしょう。先ほど情報の提供とおっしゃいましたが、それは確かだと思えるのです。ただ、提供された情報を実際生かさないという情報の意味がないわけですね。その点は、何かコツがあるのでしょうか。特に経験がおありでしたら、お話しください。

◎B者 非常にその辺は難しいところですね。これまでその方が経験をしてきたことを、実際の起業につなげるということであれば、意外とすんなりいくのですけれども、全くないところから起業ということになりますと、まず、先ほど言いましたが、情報の提供であると。その中で、その方が望んでいることを事業計画書ということでつくらなければいけない。それに必要な、先ほども言いましたが、金融関係で、資金調達の内容についてもつくらなければいけないということで、その辺、これまでもそうなのですけれども、ケース・バイ・ケースで取り組んできておりますけれども、正直言って、難しいところだと思います。

◎委員長 私も、こうすればいいなんて、全くアイデアがありませんので、お聞きした次第です。

ほかはいかがでしょうか。

◎委員 個室、それから、シェアブースの利用申請の承認の関係なのですけれども、いただいた資料の中では、「創業・起業に積極的に取り組む意欲がある者を選定していく。」ということで、やや抽象的なのですけれども、公平・公正の観点から、例えばですけれども、委員会を設けて選定するとか、現段階で申請者の承認について、具体的なお考えがあれば教えていただき

たいのです。

◎B者 指定管理全体に関しまして、内部でももちろん組織委員会というものを立ち上げる予定でございます。その中で、この利用申請、承認に関しましても、いろいろな情報を見るというか、もらうというか、そういう部分、それから、創業の方に関しましては、気持ちの問題と申しますか、モチベーション、やる気の問題というのも十分必要な部分だと思いますので、その辺はそういう組織委員会の大勢の目と申しますか、そういうところで判断をしていただきたいと考えております。

◎委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎委員 創業者向け研修会、セミナーというところなのですけれども、ここのためにつくるのではなくて、今、持っていらっしゃるものを向こうでやるということだと思えるのですけれども、創業者向けの研修会とかセミナーというのはどういうのをお持ちなのですか。何本ぐらいお持ちなのですか。

◎B者 経営内容にもよるのですが、例えば、先ほど言った金融ですとか、販路開拓、それから、マッチング、経理なども入ってきますので、その経営内容の分野によって、いろいろな組み方があるかと思えるので、特に何本という形ではなくて、その内容に合わせたセミナーというのを今、考えております。

◎委員 今までやってきたものの中ではなくて、これからまた考えていくということなのですか。

◎B者 同じようなものということは、私ども、セミナーをやる際、去年やったものを必ずやるということは今までできてございませんので、時代の変化とか、創業者が求めるものもいろいろ変わってきますので、そういうものを聞いた上でセミナーの中身の構成というものは常に考えてございます。

◎委員 年に何回ぐらいやる予定ですか。

◎B者 KO-TOのほうでということでしょうか。

◎委員 はい。

◎B者 大きいものは年4回は考えております。

◎委員長 では、私からですけれども、創業者に対する取組というのは、全国組織のほうでも何か組織的に具体策を考えていらっしゃるのですかね。差し支えない範囲で教えていただければと思います。

◎B者 考えてみまして、全国組織のほうではなかなか事業という形では開催ができませんので、要するに、費用が都道府県のほうに流れてくるのですね。さっき、うちの担当も言いましたけれども、うちのほうの上部団体、連合会というところがあって、そこでその費用を使って、創業者向けの研修会だとか、セミナーだとか、そういうものを開催をしていると。それに対して、各地域の団体が呼びかけをしまして、参加をしているという形になります。

◎委員長 そうですか。わかりました。

あと、お一人ぐらい、いかがでしょうか。

◎委員 冒頭、今回の施設を相談拠点にしたいというお話だったのですが、相談拠点にしていくということになりますと、例えばの話ですが、所長を置いたりとか、それから、人員を少し補強したりとかという形になると思うのですが、その相談拠点のイメージがもう少し具体的な形で、今、もしおありになるなら教えていただけるとありがたいです。

◎B者 まず、当方事業所もちろんございまして、そこに経営相談という形で皆さん来ていただいております。私どもが考える相談拠点なのですが、これはあくまでも創業・起業の方の相談拠点という形でありまして、創業を考えている、あそこに行けば相談の情報が得られるというような創業に関する専門的な相談拠点というふうに考えておりまして、もちろん、相談内容が大きくなってきたり、多くなってきたりした場合は、そのような、所長というか、そういう体制も考えていかなければいけないなどは考えております。

◎委員長 それでは、そろそろ時間ですので、ありがとうございます。これをもちましてB者さんに対する第2次審査を終了いたします。審査結果につきましては、後日、担当課より文書で通知することになります。では、本日はどうもご苦労さまでした。

(B者退室)

◎委員長 次は何分からですか。

◎水落企画政策課長 40分です。

◎委員長 では、また今から10分ぐらい休憩と採点といたします。

(採点・休憩)

(C者入室)

◎委員長 それでは、再開いたします。

本日は、お忙しいところを小金井市指定管理者選定委員会にご出席をいただき、ありがとうございます。ただいまからC者さんに対する第2次審査を始めます。

初めに、提出していただいております提出書等に基づいて、提案内容に沿って、15分で簡潔に説明をお願いいたします。時間が来ましたら、途中でも終了とさせていただきますので、その点をご了承ください。その後、約20分にわたって各委員からの質疑応答を行うことになります。

なお、説明に際しましては、担当者の方のお名前は言っていただいて結構ですが、会社名や会社名がわかるような発言はしないというルールですので、その点をご了承ください。

それでは、今から15分間、説明をお願いいたします。

◎C者 今回は説明の機会を与您いただきまして、ありがとうございます。前半の私どもの理念の部分と、それから、基本的な考え方の部分を私が、それから、後段の収支計画等の部分についてこちらのほうで説明をさせていただきます。

提案の補足説明ということですので、提案部分の説明ではなくて、プラスした部分をご説明差し上げたいと思います。お手元の提案書にも書いておりますけれども、私どもの組織の目的

を再度確認させていただきたいと思います。

履歴事項全部証明書の初めのところに私どもの組織の目的を書いておまして、その中で、目的及び事業について、このように書いてございます。「この法人は、地域の中で人々が生活するために必要としている仕事を協同でおこし、或いはその活動を支援し、協同の息吹溢れる新しいコミュニティを創造することで、豊かで活力ある社会の実現に寄与することを目的としています。」というふうに、私ども組織の目的を書いてございます。

そのために、以下の事業をやろうということです。一つは、保健、医療または福祉の増進を図る活動。二つ目が、まちづくりの推進を図る活動。3番目に、子供の健全教育を図る活動。4番目に、そうした団体の支援や連絡、助言または援助をする活動ということで、四つの項目をうたっておりまして、私どもの目的はほとんどここに言い尽くされております。

ご提案書にも書きましたけれども、私どもは、自分たちの生活を、自分たちが住む地域を、豊かで、暮らし続けられる、そういう地域にしたいと願って事業運営を進めてまいりました。当初、組織を結成したときから、事業の主体になるのは働く人たちと地域の人たちということで、協同組合の理念を取り入れて、地域の課題を市民の皆さん方とともに解決して、それを事業として継続させていくことを軸にして運動と事業を進めてまいりました。

そういう点から考えますと、地域の課題解決をするためにどうするのかということを中心にして考えてまいりましたので、当然のことながら地域密着型の組織のスタイルをとることが一つと、もう一つは、自分たち自身が住んでいる地域を豊かにしたいということが基本的な観点としてありますので、地域の人たちがそこで働いている、地域の人たちがそこで力を発揮して地域を豊かにしていくという二つの点が私どもの組織の特徴でございます。

ご提案書の中で、私どもの事業を私どもの事業パンフレット等々にも書いておまして、私どもはほかの会社とか、いろいろな組織とは違まして、働いている人たちが出資をし、そして経営をし、運営するという、その三つを一体化した組織ということになります。したがって、そこにいる人たちみんなが力を合わせないと、事業自身がうまくいかないということもありますので、私ども、三つの協同ということで、一つは、自分たち自身の仲間の協同、それから、地域との協同、そしていろいろな形でそこに参加される人たちとの協同という三つの点を協同していこうということで、大きな一つのスタイルとして取り組んでまいりました。

事業の経営についても、自分たちで出資をするわけですから、当然、銀行から借入れが今のところ一銭もなく、自分たち自身が事業運営をして、そこから得た利益を再度還元して、地域社会や、地域の課題解決のために使うという組織の形態をとっておりまして、私どもは協同労働という言い方をしておるのですけれども、最近、協同労働という働き方が、いろいろなところでも、地域課題の解決に役立つという評価がされ始めて、例えば、読売新聞とか、朝日新聞、日経新聞等々でも、この間、何回か取り上げられましたし、NHKの「クローズアップ現代」とか、あるいはテレビ東京の「カンブリア宮殿」でも最近、取り上げられるようになりました。

また、ネットでごらんになるとわかりますけれども、広島市では、協同労働によるプラットフォーム事業ということで、市のほうで施策として取り上げられて、そういう事業の募集もするようになっております。そういう点で、私どもの組織が、地域の課題と、そこに働く人たちが、自分たちの本当に必要な事業をやっていこうということで作った組織ですので、今回の地域を軸にした、密着した事業という点では十分、私どもの考え方が取り入れられるのではないかと考えております。

それから、二つ目の問題ですけれども、「事業の実施計画」のところ、仕様書には、農工大・多摩小金井ベンチャーポートの方たちを中心にとということと、もう一つは、新しい事業を創業者の方たちを中心にとということで今回の仕様書を書いておりますけれども、私たち自身が、提案書にも書いてありますけれども、これから地域で活躍されるような学生とか、もう卒業して、まだ就職されていない方とか、いろいろな方たちがおりますので、大学との提携、連携も深いものがございますので、そういう方たちが活躍できる場にしたい。つまり、若い力をこういうことで生かすという方向にしたいことと、もう一つは、特に私ども、福祉事業などもずっと長い間、力を尽くしてきましたので、若い女性たちが活躍する場。もう一つは、高齢者の人たちが、これから団塊世代がたくさん出てまいりますけれども、団塊の世代の人たちが活躍する事業を考えながら、新しい事業をおこしていきたいと考えています。

事業集積はそういう多彩な事業が集まってできるものだと考えておまして、そういう支援の体制についても、私どもはNPO法人ですけれども、全国組織でもございますので、法律事務所とか、会計事務所、それから、私どもの組織内にも、三多摩のほうにはそういう専門家がおりますし、協同組合やワーカーズグループ等の協同を熟知した人たち、それから、もう一つ、個人事業者で貿易をしておったり、建築関係をやっておったり、いろいろな広報活動とか、新聞の編集等々をやっている事業者が神奈川と東京に集まって、フロンティアネットワークというものを組んでおりますので、そういう方たちへの協力。それから、そこに書いてございますけれども、大学との提携を随分して、私どもの運動を進めていきたいと考えております。

それで、入居等の条件と、そこで何をするのか、経営の問題について、こちらのほうから説明させていただきます。

◎C者 今、話させていただきましたのがカワチと申します。私はサイトウと申します。

組織の理念等については、カワチから話してもらいましたが、サイトウのほうからは、では、具体的にどういった運営をするのかということにつきまして、基本的に立地的にも、中央線の高架下であるということで、駅からも300メートル以内ということで、比較的いい立地の場所であるということで、説明会の段階では、利用される、入居される方々はまだいっぱいにはなっていないというお話ではございましたが、あれだけの設備がございまして、それをフルに満室にするよう努力いたしまして、そういった収入をベースに運営事業を展開していきたいと考えております。したがって、収支計画の中では、具体的にはここに書いてあるとおりの想定で進めていきたいなど。

実は、私自身は、すぐ隣の武蔵野市のテンミリオンハウス事業の責任者をやっております、その関係で、亜細亜大学、それから、武蔵野大学の先生方とも非常に交流を持たせていただいております。それから、地域の市民社協の福祉の会の方々とか、西部コミュニティセンターの方とか、地域の方々ともかなり交流を持たせていただいております。残念ながら、小金井市内にはまだ事業がございませんので、現在は小金井の地域の方々との交流はまだないのですが、今までに培ってきた地域との交流を深めることを小金井の中で展開し、中小企業の方々ですとか、農工大の方々ですとか、強い地域の力を活用した事業展開につながるような事業者の方々の育成事業を展開していきたいと考えております。

また、個人的には、私は多摩ニュータウンのほうに住んでおるのですが、そちらのNPOセンターでも運営委員をやっております、そういった関係で、多摩信用金庫のコミュニティビジネスのネットワークにも参加しております、そういった地域のコミュニケーションのビジネスのネットワークを活用した展開をぜひ東小金井のセンターの中で実現していきたいと考えております。

雑駁ではございますが、説明は以上とさせていただきたいと思っております。

◎委員長 少し早いですが、よろしいですか。

◎C者 はい。

◎委員長 では、以上で説明が終了いたしました。

これから質疑を行いたいと思っております。初めに委員長からお伺いして、その後、各委員から質問を行います。

まず最初に確認させていただきたいのですけれども、応募に当たりまして、役員の中に本市の市長、副市長、教育長、議員等の本人、またはその配偶者及び2親等以内の親族がいない旨の誓約書を提出いただいておりますけれども、このことについて、間違いはございませんでしょうか。

◎C者 ございません。

◎委員長 それでは、最初に私から1点お尋ねして、その後、各委員から質問をすることにしたいと思います。

まず初めに、私からですけれども、この施設の目的は、小金井市で起業家を育てて、さらに地元に着地させていくということを目的としているわけなのですが、これはなかなか難しい事業だと思うのですけれども、C者さんとしては、そのために何が重要だとお考えでしょうか。簡潔に、その点について、まずお話しいただければと思います。

◎C者 先ほども私どもの組織の説明をさせていただきましたけれども、基本として、地域に愛着を持つこと、それから、地域のニーズに合わせていろいろな事業を展開することは必要だと考えます。それはなぜかといえば、技術だけの事業で展開していきますと、何も小金井市だけにいる必要はないということも出てくると思いますので、やはり地域の役に立つこと、地域の事業としてしっかりと位置づける。そのためには愛着と、そこで展開できるいろいろな条件

をどう自分たちでつくっていくのかということが大切になるかと考えております。

◎委員長 わかりました。

では、ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

◎委員 ご苦労さまでございます。今、ご説明いただいて、事前に資料もいただきましたので、拝見させていただきましたが、今のご説明の中の設立趣旨に三つの柱がございます。実際に今おやりになっている実績その他を見せていただいて、どちらかというと介護関連ということで福祉関連、それから、その他で子供たちのということで、今回は、多分、真ん中のまちづくりというところに関わるのかなということですが、大変失礼ですが、実績が、いただいた資料の中では、今回のインキュベーションのような仕事は書かれていないような感じがするのです。具体的に、これ以外のことで、目的の2、まちづくりの関連で、今回に関連してこういうことをやっているのだということがもしおありになりましたら、少し補足していただきたいのです。

◎C者 一つは、きっかけは若者サポートステーションという国の就労支援の補助金から始まったことではあるのですが、千葉県北総地域において、成田空港の外で菜の花をいっぱい植えまして、それを搾油して、それからBDF、バイオ・ディーゼル・フューエルをつくる事業ですね。プラントをつくりまして、この夏からは日産1,000リットルでようやく軌道に乗り、3年ぐらいかかっているのですけれども、そういう事業を立ち上げていたり、ほかにも環境に関連するような事業は全国的に、いろいろな箇所で、比較的后発なのですけれども、これから予定のものも含めて、但馬、兵庫県のほうで林業と結んで起業しているグループもあつたり、これからかなり活発になっていく見通しになっております。

◎C者 つけ加えますと、テレビでもよくやっていたらっしゃいますけれども、香川県の高松のほうで、丸亀商店会の、今までと違うスタンスでまちづくりをやったりということがありますがけれども、私どもも一緒にかかわらせていただいて、例えば、今まで商店街の中に診療所などがなかったのですけれども、そこの出身のお医者さんと呼んで診療所づくりとかいうことで手を携えてやるということだとか、商店街の活性化事業では、東京都でも、豊島とか、いろいろなところで、行政と関連しながら、まちづくり運動をやってきています。

この周辺ですと、例えば、東久留米に、指定管理ですけれども、市民プラザという、市役所があります1階を私どもが運営しております、そこで地域の方たちと相談しながら、お祭が今までなかったので、お祭を復活しようということで、市民プラザまつりというのを、もう7回目ですかね、それをやっております、大体3,000人近くが2日間で集まれるような状況になりまして、集まったことで商店街も潤うとか、それから、出店する人も大人から子供まで、高齢者の方のバンドとかも来て、まちの活性化に大きくつながっているという例もございます。この周辺はそういうことですがけれども、そのほかでも、林業だとか、いろいろなところとも今、手を結び始めて、チェーンソーの、今度、映画ができますけれども、そういうところとも提携しながら、今、お話を進めているところです。

◎委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎委員 今のお話に関連して、小金井市ではどんなものが足りなくて、どんなものを持ってくるとよくなるとお考えですかね。

◎C者 小金井市の中ですか。

◎委員 はい。

◎C者 私ども自身もそこはまだ調べていませんけれども、ただ、小金井で非常に目立つなど思っているのは、例えば、市民文化センター、駅前の活動、交流センターですか、あそこなどを拝見すると、トイレだとか、いろいろなことが相当先駆的な、例えば、人工肛門をつけていらっしゃる方のいろいろなことだとかいうのを随分やっというところがあることがあって、そういう点で進取の気性に富むところだなど思っています。

ただ、同時に、団地だとか、いろいろなところも多いこともありますし、団地の高齢化問題というのはどこも避けて通ることはできないので、一つは、元気な高齢者自身が、体が弱いとか、なかなか買い物に行けなくて、高齢化で孤立している人たちを助ける事業を展開するとか、歩きましたら、随分自然環境が豊かなところで、そこでパン屋さんをやっておられたり、喫茶店をやっておられたり、若い人たちが随分戻っというところですね。そういうところなども提携しながら、小金井の環境だとか、自然を守る活動、同時に、そこから立ち上がってくるいろいろな事業をネットワーク型にして、ネットワークでいろいろな形を考えていく。

私どもの組織自身が、いろいろな人たちの知恵を集めてずっと運営してきたということがございますので、皆さん方の知恵を出す仕組みとか、そういう場づくりだとかいうことを特技にしてやってきました。ですから、そういう点で、都市型としての課題と、農村に近いことに対する課題と、両方あると思いますので、そんなにほかの市と変わったことはないと思います。ただ、団地の高齢化の問題だけはこれから本当に考えなければいけないし、特に生活保護の問題とか、認知症の問題というのは、今回あまり関係ありませんけれども、そこは結構大切な課題だと思いますので、私ども自身もそういう形の事業も展開をしておりますして、いろいろな形の評価をいただいていると、そういう状態でございます。

◎C者 ちょっと補足させていただきますと、今まで、どちらかというところ、例えば、いろいろなエネルギーをよそから持ってきてというような社会であったというところですが、小金井市などは、地域によって循環するような、例えば、駅前で今、太陽光の発電とかを取り組んでいらっしゃるようですが、もっともっと、地域の中の農業ですとか、いろいろなことが、この市内の中でも循環するような工夫の余地というのはかなりあるのではないかと期待しております。農工大などもそういった研究も進めておられますから、そういったところの知恵を集めていけば、東小金井事業創造センターが非常にいい情報の集約の箇所になるのではないかと期待しております。また私どもも正直、不勉強な点があるのですが、もっともっと、これをきっかけに深めていくことは可能かと思っています。

◎委員長 では、私からお聞きしたいのですけれども、提案書の5ページを見ますと、(8)の人員体制のところ、事業を進めていく上で必要な人材を確保して、契約を交わした上で配置

すると書かれているのですけれども、この施設の性質からしますと、起業を支援して、小金井市に定着してもらおうという、なかなか難しい課題を持っているわけですが、そういうことについて、かなりのノウハウなり、熱意がある方でないと、適切に業務を遂行できないのではないかと思いますので、具体的にどういう方を確保しようとお考えなのか、もし決まっていることがありましたら、お話しいただけますでしょうか。

◎C者 確かに、この施設そのものの一番の目的は、起業家を育てるという面もあるのですが、日常的には、あそこの施設の管理業務があると思います。通常管理業務については、特に専門性とかというよりは、確実にそこの仕事、施設を管理してくれる市民を募集して、その市民からそういった管理者をつくらせていきたいと。育成部分については、かなり幅広く、高度な専門知識等も必要になるかと思っておりますので、非常勤の形で、複数の人間でそういった講座を開くなり、そういったことをやっていき、また、それだけではなくて、大学関係との提携をした、招聘したりとかいう形で、そういった専門性については対応していきたいと考えています。

◎委員長 そうしますと、C者さんから派遣されて、常時この施設にいる職員の方は、専ら施設の管理的な側面を担当して、目的に合った運営については、それは外部の人の協力を仰ぐという、そういうことになるのでしょうか。

◎C者 ちょっと言い方がまずかったかもわかりませんが、私ども自身は、ここで常勤の人については、一つは事業をおこした経験がある人、それから、二つ目は、コーディネーターの役割がきちっとできる人と考えております。結局のところ、先ほど委員長おっしゃいましたけれども、事業をおこして、それを継続させて、しかも地域に定着させるということになりますと、私ども自身を含めた地域との提携だとか、そういう力が合わさるようなコーディネートの方だとかいうところをやれないと、多分、継続できるというふうにはならないと思います。

したがって、そこに配置する人間は、コーディネーターの力と、実際に事業をおこした経験を持つ人間を配置することと、同時に、例えば、制度の問題であるとか、企業自身がここで生き延びていくためには、例えば、いろいろな助成金の問題とか、補助金の問題を活用するという方法もありますから、そういうところで言いますと、私どももそういうのを現実にはいろいろな申請をしてやってきていますけれども、同時に法的な制度の問題とか、新しい提案をするための経営的な内容とかということで、専門性を持った人たちを非常勤ということで、相談日とか、いろいろなところに設けて、ちゃんと来ていただいて、合わせて事業の継続性をしっかり支えていこうと、そういう考え方で考えております。

◎委員長 わかりました。具体的な運営は、全国事業本部所在地といただいたパンフレットの中にありますけれども、東京の事業本部が責任を持って運営するという形になるのですか。

◎C者 八王子に事務所がございます。

◎委員長 そこが責任を持って運営する形になるわけですね。

◎C者 八王子に事務所がございまして、大体、今、40ぐらいの事業所があるのですけれども、先ほどお話ししましたように、小金井ではまだ私どもの支所というか、分所はないので、

これからそういう点でやっていきたいなと考えております。

◎委員長 この施設の運営上の責任者はどういう方が担当されるのでしょうか。

◎C者 私どもの三多摩事業本部の事務局長をやっておりますフジヤというものが担当するのと、私も事業本部の所属ですので、私という形になるかと思えます。

◎委員長 つまり、三多摩事業本部の中のしかるべき立場の方がここの責任者を担当する。

◎C者 責任を持ちつつ、先ほど言いましたように、施設の運営とか、いろいろなところでは、また常勤を配置して、連絡をしながらやっていくという形になります。三多摩全体でもそういう方向で、今、言いましたが、40ぐらいの事業所を立ち上げて、それで運営をしているという状況です。

◎C者 つまり、小金井市民の中で、そういったコーディネーター能力のある方を採用したいなど。その方に基本的にはその施設長を担っていただき、組織としての責任は三多摩事業本部が負っていこうと、そういった形で考えております。

◎委員長 わかりました。

ほかにいかがでしょうか。

◎委員 今の関連ですが、地元でということなので、この方をお願いをしたいという、具体的なイメージをお持ちになっているのですか。現段階で。

◎C者 現段階では、残念ながら、こちらに事業所がないものですから、正直、市民の方との交流がないのです。

◎委員 では、これから探す。

◎C者 これからそういう方を探していきたいと思えます。

◎C者 ただ、今、言いましたように、基本としては、私どもの中にいる人間をまずは配置をさせていただきます。できれば、今、ご提案しているのは常勤1名と非常勤という形にしていますけれども、それを取り巻く、いろいろな人たちが出入りするようにして、やるほうの側もふやしていくというふうに考えて、もちろんそれは経営的な問題もございますから、たくさんというわけにはいきません。ただ、三多摩事業本部というところがそこを支援するということになりますので、いろいろな人たちが、例えば、福祉の関係だとこの人だとか、事業の関係については、先ほど言った個人事業者と一緒に協力するとかいう形で運営をしていきたいと考えています。できれば、今、ちょっと言いましたけれども、私どもの考え方は、地域の人たちがそういう人を見つけ出して、地域の人たちが地域で運営するというのが一番望ましいと考えておりますけれども、地域の人に全部お任せするということにはできないので、事業本部とか、我々が責任持ってそれをやるというふうに考えております。

◎委員長 協同組合による協同労働という形態をとっておられるわけですね。事業運営について。そのやり方と、この施設の運営というのは、どういう関係になるのでしょうかね。協同労働のための組合というか、C者さんがあって、その事業の一環としてここを運営するということなのですか。

◎C者 協同労働というのも、今言った三多摩事業部の一つの事業所として位置づけようと思っています。

◎委員長 つまり、この施設の運営そのものが一つの協同労働として行われるというイメージなのですか。

◎C者 そうですね。協同労働の場合は、常勤の方が私どもと一緒にやるということに、当面で我々がちゃんと位置づけようと思っていますけれども、そういう形になると思いますけれども、もちろん、我々ではなくて、例えば、ここから起こってくる事業の人たちは、事業者ですから、自分たちで株式会社になっていたり、有限会社になっていたりということは当然ありますので、我々の経験でそれを支援するということになる。その方が全面的に協同労働をやるということにはならないと思います。運営の方法を協同労働という、私ども自身が、やるほうは協同労働と考えて、力を合わせてやるということ、理念は当然のことながら皆さん方にいろいろ説明しますけれども、特に事業の場合は株式をとったほうがいい場合も、いろいろな助成がつく場合がありますから、当然、それはそれに合わせてやるということになる。

◎委員長 そうですか。わかりました。

そろそろ時間ですかね。それでは、時間が来ましたので、これをもちましてC者さんに対する第2次審査を終了いたします。審査結果につきましては、後日、担当課より文書で通知することになります。本日はどうもご苦労さまでした。

(C者退室)

◎委員長 それでは、10分ほどかけて、採点兼休憩ということで、お願いいたします。

(採点・休憩)

◎委員長 再開してよろしいでしょうか。

それでは、第2次審査が終了いたしましたので、その結果につきまして、事務局から報告をお願いいたします。

◎水落企画政策課長 では、第2次審査の5人の委員の合計点につきまして報告いたします。

A者331点、B者322点、C者291点。以上の結果、合計点の最上位はA者となりました。

なお、最上位となった事業者の名称は、株式会社タウンキッチンでございます。

以上です。

◎委員長 事務局からの報告にありましたように、合計点数が一番高い会社はA者、株式会社タウンキッチンでした。

この株式会社タウンキッチンを東小金井事業創造センターの指定管理者候補者として選定することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

◎委員長 それでは、異議なしと認めます。

それでは、A者、株式会社タウンキッチンを選定するに当たり、選定理由として優れている

点を2～3点、さらに、何か要望があれば要望事項を小金井市長に報告することとしたいので、ご協議をお願いいたします。

◎委員長 それでは、休憩いたします。

(休憩)

◎委員長 それでは、再開いたします。

指定管理者候補者として選定いたしました株式会社タウンキッチンについて、優れている点について、各委員から発言があれば、お願いいたしますということですが、僭越ですが、私から申し上げさせていただきます。

まず、優れている点につきましては、第一点、起業家の育成と定着について、明確なビジョンを持っている。

第二点、本件施設の活用について、具体的な計画を有している。

第三点、同種の事業について、一定の実績がある。

以上の3点でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

◎委員長 それでは、異議なしと認めます。

次に、要望事項ですが、2点ございます。

第一点、一層の経営の安定を図っていただきたい。

第二点、計画の着実な実施に努めていただきたい。

以上2点でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

◎委員長 それでは、異議なしと認めます。

それでは、ただいまの優れている点3点と要望2点を市長への諮問に付記することといたしたいと考えますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

◎委員長 それでは、異議なしと認めます。

それでは、ただいまの決定に従いまして、「平成26年度諮問第1号 東小金井事業創造センターの指定管理者候補者の選定について」は、指定管理者候補者を株式会社タウンキッチンに選定し、優れた点としまして、繰り返しになりますが、第一点、起業家の育成と定着について、明確なビジョンを持っている。第二点、本件施設の活用について、具体的な計画を有している。第三点、同種の事業について、一定の実績がある。といたします。

要望事項としましては、2点ですが、第一点、一層の経営の安定を図っていただきたい。第二点、計画の着実な実施に努めていただきたい。

以上を付記しまして、小金井市長に答申したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

◎委員長 では、異議なしと認めます。

それでは、ただいま申し上げたとおり決定し、答申いたします。

以上で本日の議事は全て終了いたしました。

本日は、これをもって閉会いたします。お疲れさまでした。

(午後0時40分閉会)